

# 最前線レポート

発行所  
太平洋基礎工業株  
たいよう新聞委員会

支 所

建設業は激動の時代に翻弄さ  
れる中、人々が安全・安心して  
暮らせる社会基盤整備を通じて  
普遍的な価値を持続的に提供す  
る役割を担っている。企業は、  
絶えず顧客満足度の高いサービ  
スを提供し続け、信頼関係を構  
築することによって存続・発展  
していく使命を担っている。

そこで、瀬戸市では地場産業  
の窯業の継続的な発展のために、  
その原材料を安定して確保する  
目的で、今まで採掘ができなかつ  
た現在運動公園として利用され  
ている国有地での粘土の分布を  
調査し始めたところです。(写  
真-1) 以下では、「アーバン  
クボタ29 東海湖と古琵琶湖  
／やきもの用粘土(一九九〇。  
三)(株)クボタ」を引用して、  
やきもの用の粘土について解説  
します。

一般に「やきもの」と言えば、  
大抵の人は私たちが毎日使つて  
いる茶碗や皿などの陶磁器を思  
い浮かべます。これらの陶磁器  
は土や石の粉を水で練りまとめて  
任意の形をつくり、乾かしてか  
ら窯の中に入れ、火で焼いてつ  
くります。一方、窯を用いてや  
き物をつくる窯業は、近代に入つ  
て急速に発展し、陶磁器以外に  
ガラス、セメント、ほうろう、  
碍子、煉瓦など、さらに最近では  
ファインセラミックスなども  
登場しています。

今日は陶磁器工業は、生活用  
品や建築材料、工業材料など各  
種の陶磁器が大量に生産されて  
いるわけですが、ただやき物  
(陶磁器)の場合には、その製法  
上の特徴から造形性や装飾性を  
豊かに表現できるので、工芸陶  
器からマスプロ製品まで幅広く  
なっています。

社会には数多くの職業がある。  
すべての役割を果たし、仕事を  
こなせる全脳の人はいない。特  
に土木・建築工事に携わる技術  
者は、各人各様、経験・知識・  
技術力が異なる同士を、ひと括  
りの専門技術集団をなして  
いる。それぞれがしつかりした  
離化が生じている。

当社において当社が有する強  
みは、工法開発による工法の多  
様化・施工業績を有効に活用し、  
弱みと想定される分野を補強す  
る必要性がある。その実行に向  
けては、「和」の文化のアイデ  
アをベースにした取り組む手法が効果的と考えてい  
ます。

今年も色々ありました。意志  
あるところに道あり、私の大好  
きな言葉です。災害も多発し、  
被災地でのボランティア活動を  
積極的に行つてきました。神守  
研究開発センターと菰野町の置  
き場での太陽光発電、住宅とし  
て約300世帯分の年間平均消  
費電力量を補い、環境面では五  
二七tのCO<sub>2</sub>を削減。杉の木  
に換算すると約3800本の  
CO<sub>2</sub>吸収量。環境面での貢献  
もできました。

財務諸表に記されない、働く  
人の意欲を向上させる本社での  
学習会。年六回二三〇名を超える  
方が参加しました。職場を大  
切にしたいと願う多くの職員、  
向上心高い職員がいて事業を進  
めてこられました。本年最後の  
共生共遊、職域の皆様に感謝、  
感謝で文を結びます。

この二つの文章からすると現  
代の企業は、市場原理が働く熾  
烈な競争社会において収益を追  
求しつつ、絶えず変化する市場  
のニーズに即した活動が求めら  
れている。こうした企業活動に  
当っては日本文化の「和」の概  
念を基調としたアイデンティテ  
ィーである。また企業の持続的  
な安定と社会発展に貢献し、  
発展には、イノベーションを繼  
続しながら增收増益による財政  
基盤の安定と社会発展に貢献し、  
社会環境へ適応し存在し続けるこ  
とである。

企業組織の縦糸の上に横糸の織  
りなす連携の下、財・サービス  
等、付加価値を賦与する責務で  
ある。各個人が有している専門  
的知識や技術・経験は、それぞ  
れの役割や仕事が適しているか  
どうかでその人の個性や強みや  
弱みをもたらす。適材適所の「スペシャリスト・チーム」  
の編成方にも寄与する可能性が  
高い。昨今の公共工事の現状は、  
低額受注、入札不調の発生、人  
手や資材・機材の不足といった  
課題が山積する厳しい環境下に  
ある。結果、企業の受注状況や  
利益確保・財政状況等に二極分  
離化が生じている。

当社において当社が有する強  
みは、工法開発による工法の多  
様化・施工業績を有効に活用し、  
弱みと想定される分野を補強す  
る必要性がある。その実行に向  
けては、「和」の文化のアイデ  
アをベースにした取り組む手法が効果的と考えてい  
ます。今年も色々ありました。意志  
あるところに道あり、私の大好  
きな言葉です。災害も多発し、  
被災地でのボランティア活動を  
積極的に行つてきました。神守  
研究開発センターと菰野町の置  
き場での太陽光発電、住宅とし  
て約300世帯分の年間平均消  
費電力量を補い、環境面では五  
二七tのCO<sub>2</sub>を削減。杉の木  
に換算すると約3800本の  
CO<sub>2</sub>吸収量。環境面での貢献  
もできました。

この手法では全社員が「ほ  
れんそう」による情報伝達・交  
換により、施工現場で生じる課  
題・問題解決を共有しつつ、迅  
速に対応することで、企業のス  
テイクスがなお一層高める要因  
となる。

当社は、引き続き施工条件・  
顧客要求に具備した工法等の開  
発を通じイノベーションを重ね、  
他社と比類のない「強みを活か  
した工法の多様化・施工実績等  
の有利性」を利用し、市場二一  
に弾力的に対応し、受注・利  
益向上を図る必要があると、考  
えている。

今後の当社の受注・施工方式  
の方向性としては、技術力・実  
績等の「強みを活かしたイノベ  
ーション」で土木工事一式ある  
いは建築工事の元請・J.V.施工  
が出来る企業体制が早い時期に  
整えられることを大いに期待し  
ている。

わざか一ヶ月でと言う方もい  
ましたが、七月にその旨取締役  
幹部会出席、この成果は決して  
一ヶ月間のものではありません。  
時空間で言えば七ヶ月の四  
ヶ月間の支店職員の頑張りの成  
果とみています。六ヶ月間と決  
して、しかも、もとの水にあ  
らず、よどみに浮かぶたかた  
くられる含蓄のある文章である。

ここではダーウィンの名言を紹  
介する。「最も強い者が生き残  
るのでなく、最も賢い者が生き  
残る」延びるでもない、唯一生き残  
るのは変化できるもの」と経営者  
や人々の生き方に教唆を与える  
建設業は激動の時代に翻弄さ  
れる中、人々が安全・安心して  
暮らせる社会基盤整備を通じて  
普遍的な価値を持続的に提供す  
る役割を担っている。企業は、  
絶えず顧客満足度の高いサービ  
スを提供し続け、信頼関係を構  
築することによって存続・発展  
していく使命を担っている。

暮らせる社会基盤整備を通じて  
普遍的な価値を持続的に提供す  
る役割を担っている。企業は、  
絶えず顧客満足度の

